

# 予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

## 事業名 野生鳥獣個体数管理事業費 (わな技術向上推進事業)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111(内4172)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,211 千円 (前年度予算額： 2,211 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,211	0	0	0	0	0	2,211	0	0
要求額	2,211	0	0	0	0	0	2,211	0	0
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 生物多様性国家戦略に示される 4 つの危機のうち、第 2 の危機である自然に対する人間の働きかけの減少等により、農林業被害の拡大や生態系の錯乱につながっている現状がある。
- 自然生態系への影響や農作物被害を軽減するためには、人間による保護管理が必須の状況となっている。第二種特定管理計画では、ニホンジカ及びイノシシともに、捕獲圧を高めることを被害軽減の施策としているが、捕獲者従事者の減少や免許取得者の技術不足等により十分な捕獲が期待できない。

### (2) 事業内容

- わな猟免許所持者や経験年数の浅い捕獲従事者等を対象に、くくりわな及び箱わなの捕獲技術向上に係る研修会を開催する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

- 県内のニホンジカ及びイノシシによる農業被害は全体の約5割を占めており、その他として自然生態系への影響も懸念されている。
- こうした被害や影響は、生息数が増加し、生息域が拡大したことが一因とされており、ニホンジカ及びイノシシは、平成26年度に国から「指定管理鳥獣」に指定され、都道府県が主体となって捕獲を行うことが推進されている。
- 県が定める捕獲目標頭数の達成に向けて捕獲圧を高めていくためには、県が積極的に捕獲従事者を育成する必要がある、県負担は妥当である。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	38	
需用費	38	
役務費	37	
委託料	2,098	ニホンジカ・イノシシの捕獲に係るわな技術向上推進事業
合計	2,211	

### 決定額の考え方

## 4 参 考 事 項

### (1) 各種計画での位置づけ

- 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ・イノシシ）

### (2) 後年度の財政負担

- 第二種特定鳥獣管理計画に基づき継続実施が必要である。

### (3) 事業主体及びその妥当性

- わなによる捕獲技術を普及するためには、事業主体が自ら狩猟免許を有し、狩猟に関する専門的な知識と技術を有している団体とすることが妥当。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

## 令和8年度当初予算

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ニホンジカについては、年間15,000頭、イノシシについては、年間10,000頭程度が捕獲できる体制を整備する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①ニホンジカの捕獲頭数（狩猟＋許可＋指定管理捕獲）	20,310頭	16,887頭	17,294頭	15,000頭	15,000頭	115%
②イノシシの捕獲頭数（狩猟＋許可＋指定管理捕獲）	6,818頭	7,901頭	9,211頭	10,000頭	10,000頭	92%

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	○令和4年度わな技術向上研修会 開催日 場所 9月9日 岐阜市 12月13日 高山市		
	指標① 目標：15,000頭	実績：19,871頭	達成率：132%
	指標② 目標：10,000頭	実績：7,892頭	達成率：79%
令和5年度	○令和5年度わな技術向上研修会 開催日 場所 12月6日 岐阜市 10月15日 高山市		
	指標① 目標：15,000頭	実績：16,887頭	達成率：113%
	指標② 目標：10,000頭	実績：7,901頭	達成率：79%
令和6年度	○令和6年度わな技術向上研修会 開催日 場所 12月6日 岐阜市 10月12日 高山市		
	指標① 目標：15,000頭	実績：17,294頭	達成率：115%
	指標② 目標：10,000頭	実績：9,211頭	達成率：92%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	○ わな捕獲は適切な方法や効果的な場所選び等によって捕獲数が大幅に変わるため、研修会でそれらを学ぶことは重要である。
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	○ 本事業により捕獲従事者の技術向上が図られ、野生鳥獣の捕獲頭数の向上に寄与している。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	○ 事業の委託先と連携を密にすることで効率的に事業実施することができている。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> ○ 狩猟者の減少や高齢化が問題となっており、捕獲圧の維持が困難な状況となるため、捕獲従事者を育成・確保し、効果的な捕獲方法の普及が必要である。	
---	--

### (次年度の方向性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> ○ 野生鳥獣による農作物被害が深刻化するなか、捕獲従事者の減少と高齢化が進んでおり、本事業による研修会を通して、新しい捕獲従事者を即戦力として育成し、効率的な捕獲方法を普及することで、捕獲圧を高く維持していく必要があり、県が掲げる野生鳥獣の捕獲目標頭数を継続できる体制を整備する。	
---	--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	